



発行所 十勝毎日新聞社 千080 帯広市東1条南8丁目 電話=編集②2121、広告②2323、総務・販売②2222 ©十勝毎日新聞社 1987

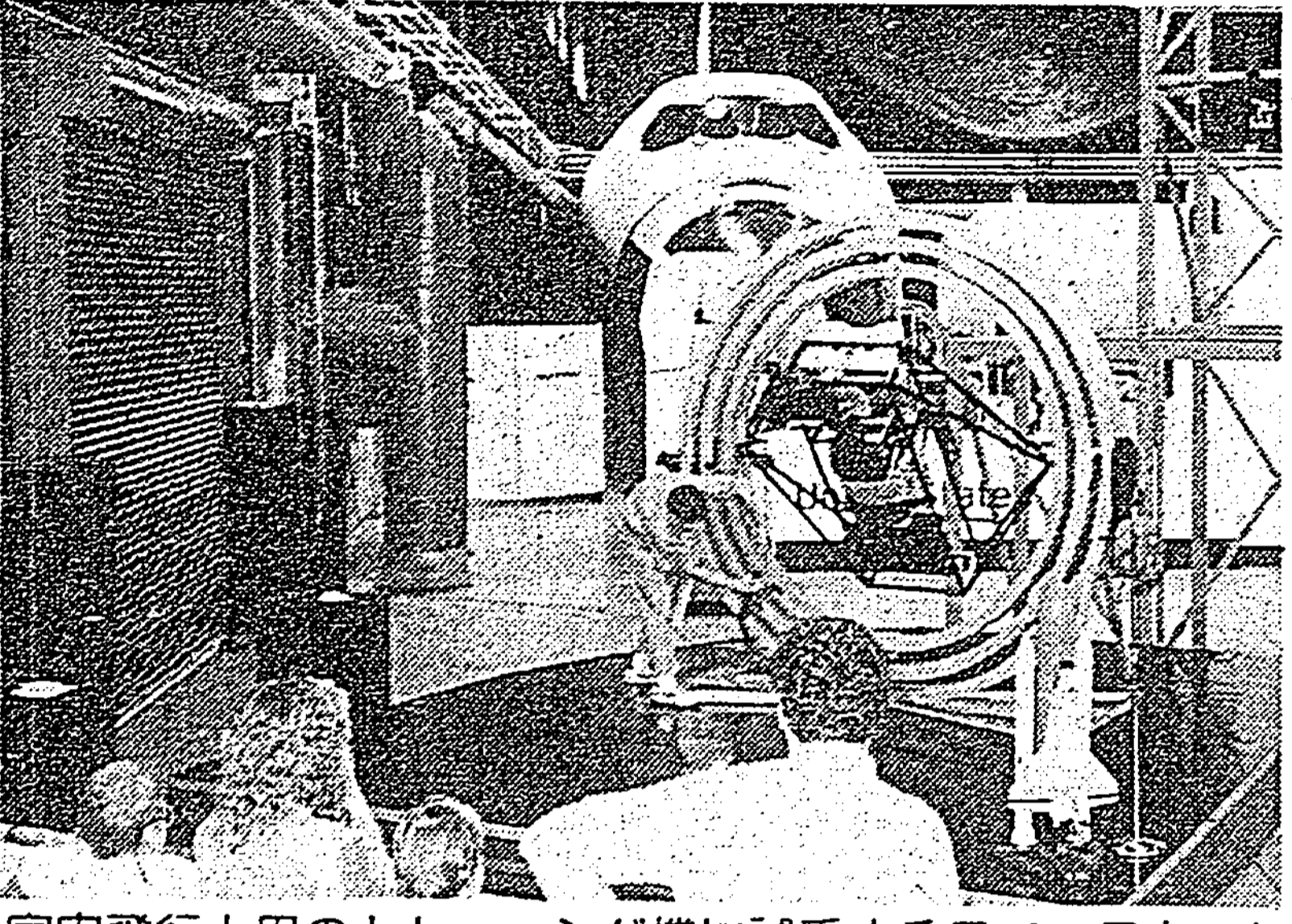
# ★アメリカ★ ★宇宙開発★ ★最新★ ★前線★

<4>

上田さんの案内でアラバマ州ハンツビル。ここで迎えてくれたのが清水町御影出身で、病室の臨床心理医を務めるケン・サリバンさんと結婚し、ハンツビルに住んでいる上田悦子さん。六月二十八日付本紙に詳しく紹介されているが、上田さんはフリーで通訳、翻訳業を行い、活躍しているため、NASAについては詳しい。

最初、かつてゴッソフイルスの大地主が築いたころ、眠って建てた豪邸が立ち並ぶタウンに連れて行ってもらった。西鄙劇でみるような白い素着の美しい家ばかりだ。今も二世、三世が住んでいるが、車社会になじまないせいか、付近のショッピング店は郊外に出向き、商業地としては寂れているという。

## マーシャル宇宙センター



宇宙飛行士用のトレーニング機に試乗するスペースシャープの子供達(上) アポロ宇宙船の実験機に入った記者(下)

もらった。月へ行ったアポロ宇宙船があった。物好きな私はシ

しき。頭を動かすとクラッシュするが、ながながおもしろい。シャトルスペースライナーという乗り物も体験。シャトルの乗り心地を味わった。

だが、ついでに遠慮したのが、ゼロ・グラビティ・マシーンという大きな

ール・ブラスター(玉つぶし)と呼ばれる装置だ。子供たちは平気で乗っているが、やがて恐怖感も体験。シャトルの乗り心地を味わった。

ては、一回見てもいい。夏には世界の子供たちがここでスペースキャンプをする

ワシントン州のNASA本部、フロリダのケネディスペースセンターでも感じたが、ここマーシャルでもスペースシャトル再開に向けてNASAの意気込みがヒシヒと伝わってきた。

この後、マーシャルスペースフライトセンターを見学した。敷地七百五十畝、実際に日本の宇宙開発の研究、実験施設が集積している筑波宇宙センターの十五倍の広さ。ひとつの施設が隣の施設に移るのに、バスで数分かかる。

だが、ここマーシャルにはシャトルのブースター、メインタンクも、スペースラブも築物に収まっている。フルもある。日本の宇宙開発予算は千二百億円。しかし、米国の場合、NASAの予算だけで年一兆二千億円で日本の十倍、国防省の宇宙関連を合わせると、米国の日本の二十五倍の予算になる。ケネディスペースセンターを見てもそうだったが、マーシャルSPCでも宇宙開発における日本の底力の違いを痛感してしまっ

# 底力の違いを痛感 規模、予算ともケタ外れ

シソーで無重力に近い体験ができる。俗にこれをボ

この外、立て展示してあるサターンI型、機にな

面をながめながら実際に乗

ライナーは高さ約千四百

金米を誇る中型宇宙大

サ・ドリーム イスラム

士が絶賛した映画だ。ス

年間キャンペーン「目指せ宇宙基地」第4弾

(小野寺裕記者)